

倫理法人会は三月一日より、平成二十四年度の後半戦がスタートしました。

全国の各会におかれましては、これまでの半年間、それぞれの方針に則って様々な行事や活動に取り組んでいただきました。その成果はいかがだったでしょうか。

『倫理法人会規定』の第四条に、「本会は、前条の目的を達成するため、年度活動方針に基づき次の諸活動を行なう」とあります。

その目的とは、「実行によって直ちに正しさが証明できる純粹倫理を基底に、経営者の自己革新をはかり、心の経営をめざす人々のネットワークを拡げ、共尊共生の精神に則った健全な繁栄を実現し、地域社会の発展と世界の平和に貢献する」です。すべての行事や活動はあくまで、弊会の目的実現のために開催されるものでなくてはなりません。

会員諸氏は、「縁があり純粹倫理の学びに触れ、さらに実践することによって自らが変わり社員が変わり、会社や家庭が良くなった」という喜びを、行事や活動を通して一人でも多くの経営者に伝え広めていくことが肝要です。

「普及」とは、広く一般に行き渡ること。また「行き渡らせること」です。「良いことは人にすすめるべき」なのです。

自身の悩みが解消し、生活が改善され、会社や家庭が良くなり幸せになったというだけで留まっていたはなりません。自らの体験を伝え純粹倫理を実践する人が一人でも多くなることで、世の中を確実に良い方向へと導いていくのです。地道な取り組みではありますが、これが倫理法人会の目指すべきありかたです。



## 日本創生の心に立ち返り 実践普及に邁進しよう

絵・わたなべじゅんじ

A社長は社員に対して、仕事に取り組む心構えや職場人としての姿勢などを口やかましく指導していました。しかし社員が一向に、素直に耳を傾けてくれず悩んでいました。

ところが、倫理法人会に入会し日々勉強を深めていくうちに、その原因がはつきりとわかってきたのです。それは自分自身が先代社長に同じような事柄を言われながら、「うるさい社長だな」と全く聞く耳を持たなかったことです。そして、最も欠けていた点が、社員には変わることを求めながら、自らは何も実践せず何も変わっていないことでした。

A社長は「社員に強要する前に自ら動く」と心に決め率先して実践に取り組みました。その後、社員が見事に生まれ変わり、会社の業績も上向いてくるようになったのです。

そして現在A社長は、週に三日、仲間と共に純粹倫理の普及のため会社訪問を続けています。自らの喜びを伝え、新たな出会いを楽しむとともに、多少なりとも世の中のお役に立てる日々感謝の気持ちを持っています。

「人のいのちは、いつか終る、どれほど惜しんでも必ず終る。…終って後の世に残るものは何だ、金か、物か。そのようなものは、時の流れの中にはかなく消え失せよう。百年、人が記憶し、語り継ぐのは、何を「こころざし」惜しきいのちを費やして遂げんとしたか、その行跡しかないのだ」

（『四十七人の刺客 池宮彰一郎著』）

年度後半戦にあたり、日本創生を念じ、日々実践普及に邁進することが、倫理法人会の使命であると再確認しましょう。